

水産学部と資源機能化学科についての FAQ

～資源機能化学科 学習編～

Q. 資源機能化学科を選ぶメリットは何ですか。

A. 当学科では講義や実験・実習を通して、海洋生物資源を有効活用するための理論と技術を学びます。いずれも食品、化学、薬品、生活環境といった我々の身近な生活と直結します。特に最近世界的にも水産食品の需要が大幅に拡大しています。陸上の食素材と比べて取り扱いが特殊な水産物を美味しく安全な食品素材として開発していく、そうしたノウハウを学び研究に取組めるのは水産学部の資源機能化学科だけです。

Q. 資源機能化学科は練習船に乗る機会がありますか、逆に乗船しなければなりませんか。

A. 2年生の選択科目として「基礎乗船実習」が開講されますので乗船することができます。選択科目ですので乗らなければいけないということはありません。逆に乗りたい場合は他学科の実習を履修する事も可能です。大学院進学後は研究内容によっては乗船の機会があります。

Q. 学生実験はたいへんですか。

A. 3年生の1年間で7科目の実験実習があります。平日午後は基本的に毎日学生実験実習となります。化学分析的なものから実際に缶詰を製造する実習まで幅広い内容を含みます。多くの実験実習は時間割通りの2コマ3時間で終わりますが、失敗したり手際が悪いと遅くなることもあります。実験実習の内容は全て4年生以降の研究につながる重要な要素です。

Q. 講義は難しいですか。

A. 必修単位は学生実験と英語だけなので、授業に参加していれば留年する事はほぼありません。ただ、毎日学生実験がはいるため、2年生時と比較し、非常に

忙しくなります。2年生までにとれる単位は可能な限り取得しておくことをお勧めします。講義の内容は各教員が大学院での研究あるいは会社での実務に必要な内容だと考えている内容です。難しいかもしれませんがしっかり身に付けて下さい。

Q. フィールドワークはありますか。

A. この学科で扱う対象物は基本的に陸に上がった後のものですので、実験室でのラボワークがメインになります。しかし、試料収集のためのサンプリングも重要な作業で、このときは野外でのフィールドワークになります。

～資源機能化学科 研究・就職編～

Q. 大学院に進学する人は多いですか。

A. 毎年多数の人が進学しています。この学科から大学院への進学率は例年 60-80%程度です。進学先の多くは水産学部直結の水産科学院です。その他に環境科学院、農学研究院、薬学研究院、あるいは他大学の大学院に進学する学生も毎年います。修士課程を修了した後、さらに博士課程に進学する学生もいます。

Q. 就職状況は良好ですか。

A. 学部卒で就職する人、進学後に就職する人、いずれもこの学科は良好な就職状況です。民間企業に入る人が多いですが、官公庁にもしっかり就職を決めています。

Q. この学科で学べば食品会社や化学品メーカー、製薬会社に行けそうですか。逆に全く分野が異なる職種には就けませんか。

A. これまでの就職先を見ると、食品や化学分野への就職に強いことがアピールポイントです(学科紹介スライドの最後に主な就職先の掲載があります。)。当学科の卒業生は、食品や化学系会社で研究開発職に就いて活躍している人が多くいます。それは、食品化学などの学問をきちんと学んできていることが評価され

てのことと思います。学科を選ぶ際には、『会社に入って何がしたいか』ということも考える必要があります。一方で異分野に進んだ人ももちろんいます。プロフェッショナルを目指すか、ジェネラルを目指すかによっても異なります。学術的な教育や研究に基軸を置いた上で、自分が就きたい職に思いきりトライしてもらいたいと思います。

Q. 研究室配属後の1日のスケジュールを教えてください。

A. 研究室ごとのルールによって多少の違いはありますが、平日9時に登校し、17時頃まで各自の研究を進めることや論文を読んだりします。12時から1時間は昼休憩の時間で友人と昼食をとります。17時以降は引き続き実験に充てたり、バイトや部活、趣味など個人の時間に充てることもできます。

Q. 研究室決めはどうやって行うのですか？

A. まず学生間で決定のためのルールを策定します。ルールの詳細は毎年変わりますが、最初に配属希望を出して話し合いから始まる事が多いです。それで結論が出ない場合は、成績(GPA)で決めることもあります。希望する研究室に行きたい人は、勉学をしっかり行うことをおすすめします。

Q. 就職支援を受けることができますか。

A. キャリア支援室があり、札幌キャンパスのキャリア支援員からオンラインで支援を受けることができます。また、学生就活支援団体や企業の就活イベントもあり、充実した支援を受けられます。

～函館生活編～

Q. 函館ってどんなところですか。

A. 札幌から高速バスで6時間、JR 特急で4時間、飛行機で45分です。キャンパスは海のすぐ近くです。札幌と比較すると街は小さいですが、コンパクトであり車が無くても生活に困る事はありません。ほとんどの学生がキャンパス近く

に一人暮らしをしているため、交流も多いです。

A. 海はもちろんのこと、山も比較的近いので、自然豊かな場所です。そのため、釣りや登山をはじめとしてアクティビティに困ることはありません。

Q. 函館での生活はどんな感じですか。

A. 大学周辺に住まいを求めることができるので、学住近接でしっかり勉学に励むことができます。また、函館キャンパスの学生寮である北晨寮は函館の繁華街である五稜郭地区にあり、非常に新しく綺麗です。また、冬季には送迎バスがあります。

A. 水産学部は人数が限られているため、学科を越えてアットホームな雰囲気があります。現在は、感染症拡大防止の観点から難しい状況にはなっていますが、以前は学科や研究室のメンバーで五稜郭の花見やウィンタースポーツ等を行うことが多かったです。

Q. 部活やサークルはどんな感じですか。

A. 函館キャンパスにもグラウンド、体育館、プールがあり部活動も充実しています。また、函館支部のある札幌の部活や、週末に札幌に帰り部活を続ける人もいます。

A. 札幌に比べると規模が小さいですが、その分和気あいあいとした雰囲気があります。どのサークル、部活も気軽に入部できるため、水産学部の人たちは函館に来てから新しい競技にチャレンジする人も多く、掛け持ちしながら色んなスポーツに励む人もいます。就活や研究の話を先輩に相談したり、普段関わる機会の少ない他学科の人と交流を持つ場としても活用できます。